

2013（平成 25）年度  
**武蔵大学 FD 活動報告書**

武蔵大学ファカルティ・ディベロップメント実施委員会編

## 刊行にあたって

武蔵大学長 清水 敦 (FD 委員長)

情報通信、生命科学などの分野での科学の急速な発展や、グローバル化の進展などのもとで、現在、社会は大きく変化しつつある。また、知識基盤社会とも呼ばれるように、知識や情報などが社会の各分野で重要な基盤となる社会となっている。このような時代にあつて大学教育が社会で果たすべき役割はますます大きなものとなっており、大学の教育力の向上が求められている。そして、FD (ファカルティ・ディベロップメント) は、教育力の向上を図る大学の取り組みの重要な柱となるものである。

2008 年の大学設置基準の改正によって FD が義務化されたこともあり、FD の重要性に関する認識は広く定着してきているといえよう。ただし、FD という用語は、狭義に用いられたり広義に用いられたりして、その概念は確定的であるとはいえない。例えば 2012 年の中央教育審議会答申でも、FD という用語を「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称」と説明する一方で、「単に授業内容・方法の改善のための研修に限らず、広く教育の改善、更に研究活動、社会貢献、管理運営に関わる教授団の職能開発の活動全般を指すものとして FD の語を用いる場合もある」、としている。

FD 活動の概念や範囲をどう捉えるべきかについては、本学でも、今後さらに検討を重ねていく必要があるといえる。しかし、授業改善の取り組みをたんに個々の教員の自発的努力に委ねるだけでは FD 活動といえないことは、明らかであろう。FD 活動は、大学が行うべき「組織的な取組」に他ならず、またグループとしての「教授団」全体の能力の向上を図るものだからである。本学の FD 活動も、今後、ファカルティ (「教授団」) が一体となって本学の教育等の質を向上させるという性格をさらに強めていくべきであろう。そしてそのさい、こうした組織的な FD 活動の基盤となるのは、本学の教育や FD 活動の現状に関する情報の共有であり共通認識の形成である。この報告書がそのために活用され、本学の FD 活動がさらに大きく進展することを願っている。

## 2013 年度活動報告

西村 淳子（2013 年度 FD 実施委員長）

武蔵大学の FD 活動は 2000 年に「授業評価アンケート」によって始まりました。武蔵大学は開学当初より「少人数教育」を掲げ、教育を大切にしてきた大学ですから各々の教員は自然に授業改善にも熱心です。しかし、それでは、そのような武蔵大学の教育に、FD 活動は何をもたらすことができるのでしょうか。文科省中央教育審議会は、FD 活動を「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みの総称」と規定しています。言い換えると、ただ現場で教育を行うだけではなく、行っている教育が本当に学生や社会の実情やニーズに即したものであるか、また、どうすれば改善できるのか、という批判的態度で教育活動を再考し、一つ高い次元から授業改善に取り組むことが求められているのです。したがって、武蔵大学でも、ほとんどの大学と同様、「授業評価アンケート」という形で学生の声を聞く試みが始まりました。そして、毎年「授業評価アンケート」の実施方法に改善が重ねられてきました。昨年度もアンケート項目の整備やアンケート結果のフィードバックについての検討を行い、本年度よりよいものへと改良を加えました。

しかし、回を重ねるにしたがって、授業改善のための FD 活動は「授業評価アンケート」だけでよいのかという疑問が生じてきました。その問題に取り組むために、2010 年の FD 実施委員会は、和井田清治 FD 実施委員長のイニシアティブにより、武蔵大学における FD 活動のあり方を全面的に検討し、「武蔵大学における FD 活動の基本方針と課題」を策定しました。これは、武蔵大学が、文科省の求める FD 活動を受動的に実現するだけではなく、広い視野をもってその在るべき姿を考え、主体的に実行することを定めた明確な意志表示となっています。同時に FD 実施委員会は、「武蔵大学「学生による授業評価アンケート」取扱内規」をも作成しました。これは 2011 年度より施行されています。それに先立つ 2009 年には「武蔵大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程」も制定されております。そして、2010 年度には始めて『武蔵大学 FD 活動報告書』を刊行しております。報告書の刊行は、武蔵大学の FD 活動にとって「歴史時代」の幕開けを意味します。このような詳しい報告書があれば、担当者の交替があっても、それぞれの年度に行われていた活動内容が正確に継承され、歴史的な時間軸においても知恵を積み重ねることができるようになるからです。したがって、近年の FD 活動の文書化は、武蔵大学の FD 実施体制の確立を意味する画期的な出来事でした。このように制度が確立した段階に入った 2012 年度の FD 実施委員会は、これまでの活動に小さな改良を加えつつできるだけ忠実に実施しながら、さらに改良できる点を検討しました。そして、2013 年度はその検討結果を踏まえて比較的大きな改良を行いました。再検討の過程で、「基本方針」を抛り所にしましたが、文科省や社会の要請を真摯に受け止め、そこに武蔵大学としての FD 活動への主体的な取り組みの姿勢を表明した非常に優れた方針であることを再確認しています。2013 年度に行った改良は、「基本方針」の理念に基づく FD 活動の多角化であり、理念に革命的な変化を加えたわけではありません。

具体的には次のような点が改良のポイントになっています。

- ・「授業評価アンケート」の改良とスリム化

設問や形式を改良しました。実施回数を前期のみとし、多様なFD活動を行うための経費削減を行いました。カリキュラム検討のため、二次分析を行いました。アンケート資料の閲覧に関して、「武蔵大学『学生による授業評価アンケート』取扱内規」を一部改正し、閲覧条件を明確化しました。アンケート結果は個人が特定されない形にした上で、大学 Web サイトにて学内、学外に公表しています。

- ・図書館に「FD 教育支援コーナー」の設置とFD 関連図書の実

多忙な教員が学外の研修に行きにくい中、手軽に利用できるFD資料を揃えた専用のスペースを図書館3階に設けました。

- ・大学 Web サイトを通じたFD活動の学内学外への公表（2012年度より）

これまで『武蔵大学FD活動報告書』という形で専任教員に公表していた活動内容を、武蔵大学公式サイトに組み込み、学内、学外へと発信しています。

- ・研修会の充実

学外の講師を迎え、GPAの意義と問題を考えました。また、学生を交えた授業改善のためのフォーラムを行いました。

- ・魅力あるワークショップの開催

IT企業講師によるワークショップ。テーマは「教育におけるICTの利用」。

- ・FD関係の情報提供機能の強化

FD研究員による学外・学内FD活動の調査と研究。各種アンケート結果の集約と公表。

- ・大学院生とのFD懇談会

この他、新たに授業改善の試みを支援する制度の設立を計画していますが、残念ながら今年度に成立には至りませんでした。

以上のように武蔵大学のFD活動の歩みを振り返ると、2000年度に誕生し、2010年度、2011年度に制度が確立、2012年は振り返りの年で、2013年は改良の年だったといえます。今後の課題は、今年度で完結しなかった新たな試みを形にすることです。そして、この制度を活用し教育の充実を図っていくことが武蔵大学の存在意義を一層強化することになるでしょう。このような時期にFD活動に携わることができましたこと、また、教育熱心な武蔵大学のみなさまとともに働けたこと、心から感謝しております。

## 「FD 教育支援コーナー」の開設

西村 淳子(2013 年度 FD 実施委員長)

FD 実施委員会は、図書館の御協力を得て、大学図書館 3 階に「FD 教育支援コーナー」を開設いたしました。教員が授業のタイプに即した情報収集ができるよう、大学の授業改善に役立つ書籍や資料が集めてあります。専任、非常勤を問わず武蔵大学の教職員が利用できるようになっておりますので、ぜひ授業改善のために役立ててください。FD 関係図書は、その場でも読めるよう机と椅子が設置してあります。グループ研究にも利用できます。原則として図書は貸し出しが可能です。また、このような書籍や資料を置いてほしいというご要望がありましたら、FD 実施委員会の方にお寄せください。できる限りご要望に添って資料の充実を図って参ります。

現在 FD コーナーに配置されている図書は次のようなテーマのものです。

- ・ 日本や海外の教育システム
- ・ 他大学の教育内容
- ・ 教育への IT 利用法
- ・ キャリア教育
- ・ 入試の意味と方法
- ・ 国際化・グローバル化時代の教育
- ・ 大学の質保証（評価、ポートフォリオなど）
- ・ 海外の大学の FD・SD 活動
- ・ 社会人教育
- ・ 教育実践記録
- ・ 武蔵大学で作られた授業支援ツール

以下は購入した図書の一例です。新しい授業を担当することになったとき、または、授業の活性化のノウハウが知りたくなったとき、マンネリを脱するの必要を感じたとき、ふと時間が空いたとき、ぜひ「FD 教育支援コーナー」に足を運んで、ともかくどのような本があるか確かめてみてください。きっと新しいアイデアに出会うことができることでしょう。

品名	出版社名
アジアの高等教育改革(高等教育シリーズ)	玉川大学出版部
大学論～アメリカ・イギリス・ドイツ～(高等教育シリーズ)	玉川大学出版部
アメリカ大学史(高等教育シリーズ)	玉川大学出版部
日本の産学連携(高等教育シリーズ)	玉川大学出版部
私学高等教育の潮流(高等教育シリーズ)	玉川大学出版部
アジア・オセアニアの高等教育(高等教育シリーズ)	玉川大学出版部
日本の高等教育政策～決定のメカニズム～(高等教育シリーズ)	玉川大学出版部
大学改革の社会学(高等教育シリーズ)	玉川大学出版部
商業化する大学(高等教育シリーズ)	玉川大学出版部
大学改革の海図(高等教育シリーズ)	玉川大学出版部

大学教師の自己改善～教える勇気～(高等教育シリーズ)	玉川大学出版部
大学授業を活性化する方法(高等教育シリーズ)	玉川大学出版部
成長するティップス先生～授業デザインのための秘訣集～(高等教育シリーズ)	玉川大学出版部
シカゴ大学 教授法ハンドブック(高等教育シリーズ)	玉川大学出版部
I C Tを活用した大学授業(高等教育シリーズ)	玉川大学出版部
大学再生への具体像～大学とは何か～ 第2版	東信堂
講座現代学校教育の高度化<30> リテラシーを育てる英語教育の創造	学文社
高校・大学の未就職者への支援	勁草書房
インストラクショナルデザインとテクノロジー～教える技術の動向と課題～	北大路書房
図表でみる教育～OECD インディケータ～<2013年版>	明石書店
「学びの共同体」で変わる!高校の授業～授業と学びの大改革～	明治図書出版
算数・数学教育の国際比較～TIMSS 2011～	明石書店
理科教育の国際比較～TIMSS 2011～	明石書店
大学アーカイブズの世界	大阪大学出版会
僕たちが見つけた道標～福島の高校生とボランティア大学生の物語～	晶文社
教育統制と競争教育で子どものしあわせは守れるか?	明石書店
国語の授業を変える<3> 評価規準をどう生かすか	明治書院
教育効果の実証～キャリア形成における有効性～	日本評論社
大学教育アントレプレナーシップ～新時代のリーダーシップの涵養～	ナカニシヤ出版
ワークショップデザイン論～創ることで学ぶ～	慶應義塾大学出版会
教職実践演習ワークブック～ポートフォリオで教師力アップ～	ミネルヴァ書房
大学改革を問い直す	慶應義塾大学出版会
検証・学歴の効用	勁草書房
日本と世界の職業教育	法律文化社
グループ学習入門～アカデミック・スキルズ～	慶應義塾大学出版会
大学生のためのキャリアデザイン～大学生をどう生きるか～	かもがわ出版
ICT で実現する大学教育改革～フランス・カナダ・日本の事例から～	東北大学出版会
学習の支援と教育評価～理論と実践の協同～	北大路書房
植民地時代の文化と教育～朝鮮・台湾と日本～(高等教育ライブラリ 5)	東北大学出版会
大学教員の能力～形成から開発へ～(高等教育ライブラリ 7)	東北大学出版会
思考し表現する学生を育てるライティング指導のヒント	ミネルヴァ書房
未来の大学教員を育てる～京大文学部・プレFDの挑戦～	勁草書房
講座 現代学校教育の高度化<6> 生涯学習と学習社会の創造	学文社
初年次教育の現状と未来	世界思想社
産業教育・職業教育学ハンドブック	大学教育出版
明治五年「学制」～通説の再検討～	ナカニシヤ出版
大学教育改革と授業研究～大学教育実践の「現場」から～	東信堂
学士力を支える学習支援の方法論	ナカニシヤ出版
学びの質保証戦略(高等教育シリーズ 158)	玉川大学出版部
大学の教務Q & A(高等教育シリーズ 157)	玉川大学出版部